

3. 地域社会での男女共同参画 ～忘れないで地域参画～

「普通は〇〇」「△△は当たり前」という固定観念を取り除く

固定観念にとらわれてしまうことで、誰かを傷つけてしまったことはありませんか？自分だけの価値観で判断する前に、その人の立場や状況などを考え、かかわりあっていきたいものです。

また、地域社会に残る古くからの慣習やしきたりによって、役割が性別によって制限されていることはありませんか？男女が共に地域活動に参画することは、住みやすいまちづくりにつながります。



地域活動に参加

女性は地域のネットワークなどがあり、地域社会で生きがいや楽しみを見つけやすいと生活しています。男性も、できることなら若いうちから、地域の中に入り込み、職場とは違った地域のネットワークを作っておくことが、定年退職後も生きがいを持ち続け、充実した生活につながるのではないのでしょうか。最近「イクメン（地域で活躍する男性）」という言葉もあるようです。みなさんも「イクメン」を目指してみませんか？



男女共同参画意識

地域・浜松の魅力

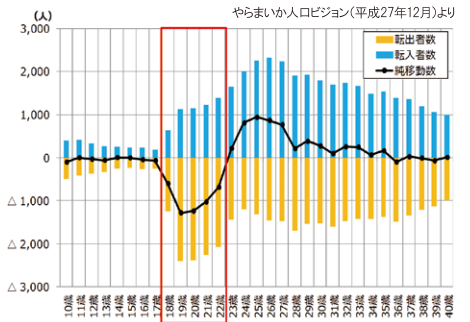
教育がスゴイ!!



教育による男女共同参画の理解

子どもの頃から男女共同参画について理解することは、とても大切です。学校で、ひとりひとりの人権、男女の平等、みんなが社会参画すること、男女が協力して家庭を築くことの大切さ等を指導していくことは、男女共同参画社会が実現され、さらには地域の魅力創生につながります。

少子高齢化の進行とともに、人口減少、地方から都市への人口移動による地域格差などにより、市の将来に極めて深刻な影響をもたらすことが懸念されています。その中で、浜松市の課題として、18～22歳の人口流出があげられています(下記参照)。しかし今、この課題に立ち向かうためにも、学校教育を通じ、未来に向けて、子どもの社会性の向上・自立の促進という男女共同参画に対する意識付けをしていく必要があるのです。学校教育により、世代を超えて男女共同参画の理解が深まることで、今後は若い世代の人口流出を防止するだけでなく、ひとりひとりが能力を發揮・活躍できる地域となり、多くの人が浜松に魅力を感じ集まって来るようになると良いですね。



■性別にみる、仕事・家庭・個人の生活の優先(希望と現実)

性別	現実	優先順位							
		仕事優先	家庭優先	仕事と家庭生活	仕事と個人生活	家庭と個人生活	仕事と家庭生活と個人生活をともに優先	わからない	
男性 (n=228)	現実	47.6	13.5	1.8	21.6	2.8	3.3	3.2	7.0
	理想	7.6	30.6	4.5	28.9	3.7	13.0	5.8	5.9
女性 (n=58)	現実	41.2	14.7	1.4	23.9	3.2	4.6	2.1	8.9
	理想	5.7	26.7	3.9	33.3	3.7	13.6	7.3	5.8
合計 (n=315)	現実	45.9	13.9	1.7	22.3	2.9	3.7	2.2	7.4
	理想	7.0	29.5	4.3	30.1	3.7	13.2	6.2	5.8

●内閣府 ワークライフバランスに関する個人・企業調査(平成26年5月)より作成

浜松市の場合は、地域のまつりや行事、防災訓練等を通して、地域の人が顔を合わせ、かかわりあう機会があります。この機会を上手に活かして、地域とのつながりを楽しみながら深められると良いですね。

災害時の教訓



過去の大きな災害の後、避難所生活の中で、たくさん問題点が指摘されました。例えば運営上の問題として、「炊き出しは女性、泥の掻き出しは男性」と性別によって役割が決められてしまったことや、防災組織に男性の割合が高いことから、支援物資として届いた女性用品の配布などをどのようにすればよいか困ったり、必要な人に届かなかつたりしたということもありました。災害時には、地域の助け合いが重要です。そのためにも、日頃から地域とのつながりを作っておくことは大切です。性別や年齢で区別することなく、女性も防災組織に入り、被災後の生活が「おたがいさま」の気持ちでより良く過ごせるように、工夫して知恵を出し合える関係が実現できると良いですね。

ローマは1日にしてならず!
地域とのつながりも、日頃からの関係性の積み重ねが大事ね!

